

## 令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立峰小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	55人	算数	55人	理科	55人
第5学年	国語	80人	算数	80人	理科	80人

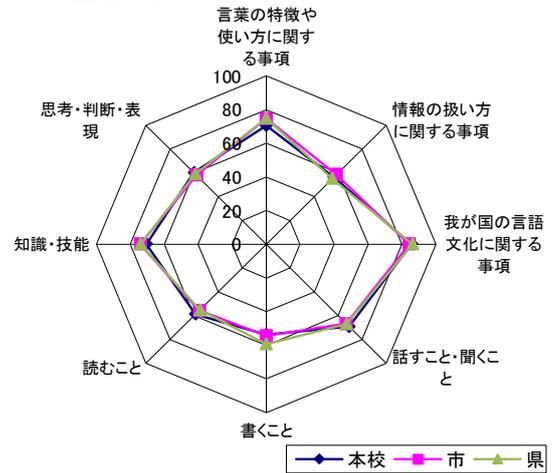
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立峰小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	70.5	74.7	74.8
	情報の扱いに関する事項	56.4	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	85.5	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	69.1	66.7	66.9
	書くこと	53.6	54.3	59.3
	読むこと	58.9	55.6	55.2
観点	知識・技能	70.6	74.1	74.0
	思考・判断・表現	60.1	58.0	59.1



## ★指導の工夫と改善

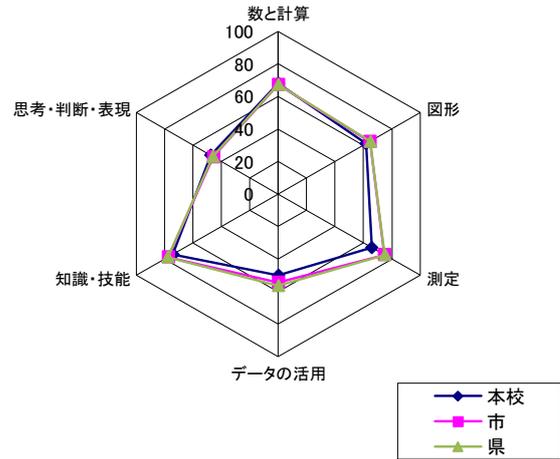
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、県の平均より4.3ポイント、市の平均より4.2ポイント低い。</p> <p>●漢字の問題では、読む問題での正答率は90%台であるのに対し、書く問題では正答率が40%台が多く、漢字の書き取りが苦手な児童が多いと思われる。</p> <p>●ローマ字とその読み方の組み合わせとして適するものを選ぶ設問では、県の正答率を4.5ポイント、市の正答率を3.4ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字ドリルや小テスト、Aドリルを活用して反復練習を行い、定着を図っていく。</li> <li>ローマ字については、ローマ字表の活用や、タブレット端末での入力とも関連付けながら学習を定着させていく。</li> <li>フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、県の平均より1.4ポイント高く、市の平均より2ポイント低い。</p> <p>●文中にある言葉の意味を理解したり、国語辞典の使い方の知識を活用したりすることにおいて習熟が不十分と思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も国語辞典を日常的に活用するように指導する。</li> <li>様々な単元を通して、情報と情報の関係性を、語や文、内容等を結び付けて考えられるような指導をしていく。</li> <li>フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は県の平均より0.6ポイント低く、市の平均より1.2ポイント高い。</p> <p>○●新出漢字を学習するときへんやつくりについて確認しているため、漢字のへんやつくりについてほぼ理解しているが、へんの名称の理解に個人差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も漢字の成り立ちや部首に着目しながら漢字の理解を深めていく。</li> <li>漢字について興味関心をもてるような指導を続けていく。</li> <li>フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県の平均より2.2ポイント、市の平均より2.4ポイント高い。</p> <p>○「話し手が話した内容を説明した文として、適するものを選ぶ」問題では、正答率が92.7%であった。</p> <p>●「参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言に適する内容を書く」問題では、県や市の正答率を上回っているものの、32.7%であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表や話し合い活動の場における聞き方・話し方の指導を継続して行うとともに、国語の授業での「話す・聞く」の単元での学習を通じ、話の内容の中心を捉えて話したり聞いたりできるようにしていく。</li> <li>様々な立場の人の話をよく聞き、それぞれの話の内容を捉えて考えることができるよう、授業を通して習熟を図る。</li> </ul>
書くこと	<p>平均正答率は、県の平均より5.7ポイント、市の平均より0.7ポイント低い。</p> <p>●課題に沿った文章を2段落構成で書くという点についての正答率は38.2%で、県の平均を6.3ポイント、市の平均を0.5ポイント下回っている。</p> <p>●指定された長さで文章を書くという点においても、無回答率が34.6%で県、市ともに平均より上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを書く活動を多く取り入れていく。その際に、段落の役割についての理解や段落構成の仕方についての指導も行うようにする。</li> <li>必要な情報を取捨選択し、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書く機会を増やしていく。</li> <li>フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>
読むこと	<p>平均正答率は、県の平均より3.7ポイント、市の平均より3.3ポイント高い。</p> <p>○登場人物の気持ちを読み取る問題の正答率は61.8%で県の平均を12.2ポイント、市の平均を9.3ポイント上回っている。</p> <p>●段落の内容を捉える問題では、市や県の平均を上回っているものの、正答率は20%であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文学的文章では、登場人物の気持ちに加えて、叙述から場面の様子を読み取れるように時間を確保し丁寧に指導する。</li> <li>朝の読書など、読書活動を推進し、様々な表現の文章にふれる機会を増やす。</li> <li>段落ごとに内容を捉える指導を行うとともに、情報と情報の関係について理解し、中心となる内容を要約する機会を設ける。</li> <li>フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>

# 宇都宮市立峰小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.0	67.3	67.4
	図形	61.8	64.5	64.7
	測定	65.9	74.7	74.9
	データの活用	50.0	54.4	56.4
観点	知識・技能	74.5	77.6	77.8
	思考・判断・表現	47.6	45.8	46.1



## ★指導の工夫と改善

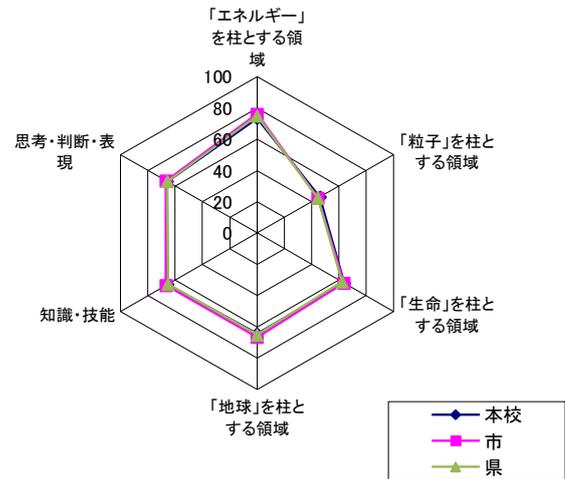
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均より0.6ポイント、市の平均より0.7ポイント高い。</p> <p>○口を使って問題の場面を図に表す問題の正答率は61.8%で、県の平均を14.2ポイント、市の平均を12.4ポイント上回った。</p> <p>●小数のしくみや表し方の理解を確認する問題の正答率は、78.2%であり、県の平均を9.4ポイント、市の平均を9.1ポイント下回った。</p>	<p>・今後も問題場면을把握する力を育てるため、問題文のわかっていることや求めるものの情報を抜き出したり、線を引いたりして情報を整理する活動に取り組んでいく。</p> <p>・小数の仕組みについての理解に課題が見られたので、フォローアップシート・CBT問題を活用して、習熟を深める。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均より2.9ポイント、市の平均より2.7ポイント低い。</p> <p>○半径と直径について理解し、球の性質を利用して長さを求める問題の正答率は、78.2%であり、県の平均を13.5ポイント、市の平均を14.8ポイント上回った。</p> <p>●二等辺三角形を作図する問題の正答率は、65.5%で、県の平均を18.9ポイント、市の平均を19.2ポイント下回った。</p>	<p>・コンパスや三角定規、分度器などの使い方を丁寧に指導していく。</p> <p>・二等辺三角形の特徴について確認をし、作図をする機会を多く設ける。</p> <p>・フォローアップシート・CBT問題を活用して、習熟を深める。</p>
測定	<p>平均正答率は、県の平均より9ポイント、市の平均より8.8ポイント低い。</p> <p>●地図から道のりを読み取り、ある地点からある地点までの和をもとめる問題の正答率は、78.2%であり、県の平均を9.8ポイント、市の平均を8.9ポイント下回った。</p> <p>●身近な物の重さについておよその見当をつけて単位として正しく使われていないものを選択する問題の正答率は61.8%で、県の平均を18.4ポイント、市の平均を18.8ポイント下回った。</p>	<p>・問題文を図で表したり、身近な生活場面と結びつけていき、問題場면을イメージする力を育てる。</p> <p>・身近な物がどれくらいの重さで、どのような単位で表されているかを確認していく。</p> <p>・フォローアップシート・CBT問題を活用して、習熟を深める。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均より6.4ポイント、市の平均より4.4ポイント低い。</p> <p>○2つの棒グラフで1つ目盛り数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取る問題についての正答率は21.8%で、市の平均を2.1ポイント上回った。</p> <p>●棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える問題の正答率は、78.2%であり、市の平均を11ポイント下回った。</p>	<p>・算数の時間だけに留まらず、他教科や日常生活で目にする様々なデータを活用し、グラフや表を読み取る力を育む。</p> <p>・フォローアップシート・CBT問題を活用して、習熟を深める。</p>

# 宇都宮市立峰小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.4	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	46.1	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	63.8	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	64.4	66.6	64.9
観点	知識・技能	65.5	66.8	65.4
	思考・判断・表現	65.9	66.8	65.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均より1.7ポイント、市の平均より2.8ポイント低い。</p> <p>○「思考・判断・表現」を問う問題は、比較的よくできている。</p> <p>●「糸電話の声の伝わり方」の問題の正答率は、県の平均より7ポイント、市の平均より8.6ポイント低く、無回答率も、県・市の平均より10ポイント程度高い。</p>	<p>・授業で、課題・予想・仮説・実験・結果・考察の学習過程を児童に意識させるとともに、結果を自分の言葉でまとめるといった学習活動を続け、エネルギーの性質を正確に捉えて理解ができるよう支援する。</p> <p>・生活の中で磁石や電気、音などに関わる活動をする際に、それぞれの性質について随時考える等、既習事項を想起させて、知識の定着を図る。</p> <p>・フォローアップシート・CBT問題を活用し、習熟を深める。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県・市の平均より共に0.6ポイント高い。</p> <p>○●「向きや形を変えて測った重さの変化」の問題の正答率は、向きの違いでは県の平均より4.7ポイント、市の平均より4.5ポイント、形の違いでは県の平均より5.2ポイント、市の平均より6.1ポイント上回ったが、どちらの無回答率も、県・市の平均より10ポイント程度高い。</p>	<p>・「エネルギー」の問題同様、課題から考察の学習過程を児童に意識させ、結果を自分の言葉でまとめるといった学習活動を続けると同時に、児童間で考えを伝え合い、考察する場面を多く設定し、習熟を深められるようにする。</p> <p>・フォローアップシート・CBT問題を活用し、習熟を深める。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均より0.5ポイント、市の平均より0.2ポイント高い。</p> <p>○「虫眼鏡の使い方を身に付けている。」の問題では、県の平均を10.1ポイント、市の平均を11.2ポイント上回った。</p> <p>●「クモが昆虫でない理由を答える」記述式の問題は、県の平均を6ポイント、市の平均を7.1ポイント下回っている。</p>	<p>・3年時に実際にモンシロチョウを飼育・観察したことを想起させ、成長の過程や体のつくりを理解させるとともに、他の昆虫についても昆虫図鑑やタブレットなどを活用して理解を深められるようにするとともに、違い等を自分の言葉で説明する機会を多く設けるようにする。</p> <p>・フォローアップシート・CBT問題を活用し、習熟を深める。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均より0.5ポイント、市の平均より2.2ポイント低い。</p> <p>●「実験の記録から影の動く様子を推測する」問題では、県の平均より5.3ポイント、市の平均より6.6ポイント下回っている。</p>	<p>・身の回りの自然現象に対しての疑問をもとに学習課題を設定し、正しい方法で観察したり、用具の使い方について理解したりできるようにする。</p> <p>・太陽の動きと影の方位との関係については、観察の結果をもとに、太陽の動きと影の方位とをしっかりと関連付ける。また、日常生活の経験においても、観察結果を関連付けて考えさせ、理解が深まるように支援する。</p> <p>・フォローアップシート・CBT問題を活用し、習熟を深める。</p>

## 宇都宮市立峰小学校 第4学年 児童設問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の設問の肯定割合は81.8%で、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろうな』と感ずることがある」の設問の肯定割合は80%である。また、「次の教科などの学習は、将来のために大切だと思うか」の設問には、「国語」「社会」「算数」「理科」「総合的な学習の時間」のどの教科でも90%近い児童が肯定的な回答をしている。児童は興味をもち、その大切さを感じながら勉強に臨んでいると考えられる。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問の肯定割合は76.4%、「友達と話し合うとき友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定割合は98.2%で、話し合いなどを通して、友達と学び合いながら学習していることが伺われる。

○「家で宿題をしている」の設問の肯定割合は98.2%、「学校の宿題は自分のためになる」の設問の肯定割合は96.4%で、児童が家庭学習にもその必要性を感じながら学習していることが分かる。

○「早ね、早起きを心がけている」の設問の肯定割合は81.9%、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしていますか(テレビゲームはのぞく)」の設問に1時間より少ないと回答した児童は20%、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか」の設問に、1時間より少ないと答えた児童が40%である。家庭において、インターネットやゲームの使い方などの約束を守り、規則正しい生活を送ろうとしている児童が多くいることが分かる。

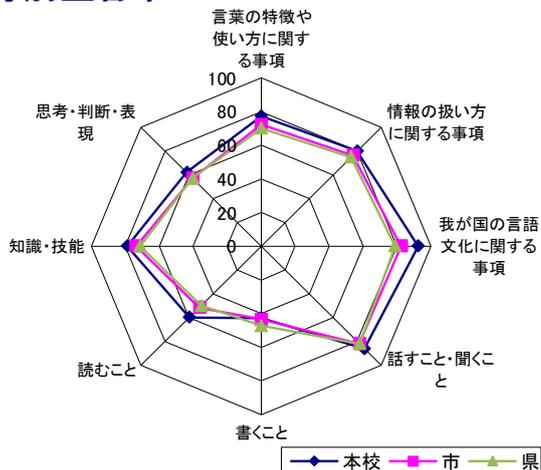
●「学校の授業以外に、ふだん(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾や家庭教師を含む)」では、30分より少ないと回答した児童が29.1%、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」では、全くしないと回答した児童が18.2%いる。「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」で「はい」と回答した児童は20%であり、県の平均より10ポイント程下回っている。学校からの宿題だけでなく、自分から課題を見つけて学習に取り組んだり、自主学習に取り組んだりできるように支援していく。

○●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間読書をしますか」の設問に1時間以上と回答した児童は29.1%いる一方で、「1か月に、何冊くらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)」の設問に2冊以下と回答した児童は38.2%である。読書を好む児童とそうでない児童の差が大きいと感じる。読書の有用性を考えさせたり、読書を好む児童からおすすめの本を紹介させたりして、読書に対する興味が高まるように支援していく。

# 宇都宮市立峰小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	77.2	72.3	70.0
	情報の扱いに関する事項	80.0	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	92.5	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	85.9	81.9	82.0
	書くこと	42.5	43.5	47.2
	読むこと	59.8	51.4	49.8
観点	知識・技能	78.9	73.6	71.3
	思考・判断・表現	62.0	57.1	57.2



## ★指導の工夫と改善

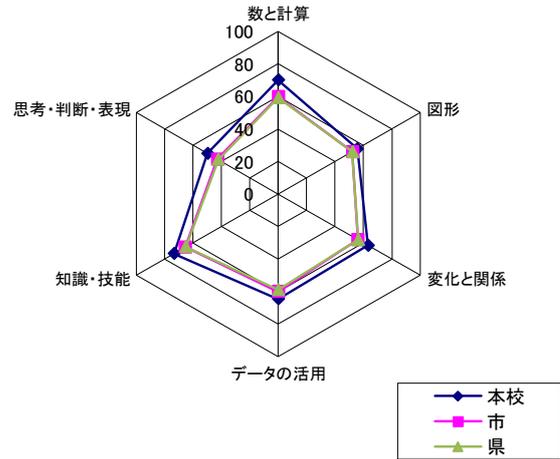
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、県の平均より7.2ポイント、市の平均より4.9ポイント高い。</p> <p>○漢字を正しく読んだり、書いたりすることがよくできている。単元ごとに小テストを行ったり、計画的に宿題を中心に漢字の練習に取り組んだりしている成果と考えられる。</p> <p>●修飾語の理解については、平均正答率が10%で、県の平均を12.3ポイント、市の平均を8.3ポイント下回っており、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、漢字ドリルや定期的な小テストを活用して反復練習を行い、定着を図っていく。</li> <li>・物語文や説明文を学習する際に、文の構成や語句の係り方に着目させて、内容を正しく読み取れるように指導していく。</li> <li>・フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、県の平均より5.1ポイント、市の平均より3.6ポイント高い。</p> <p>○漢字辞典の使い方をよく理解している。日頃から漢字辞典を活用している成果と考える。</p> <p>○説明文の中心となる語や文を見つけて要約することがよくできている。</p> <p>●情報と情報の関係について理解し、理由や事例を挙げて話すことに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、漢字辞典を使って意味調べを行うなどの活動を継続していく。</li> <li>・「読むこと」「話すこと・聞くこと」の単元で、情報と情報の関係を捉え、それらを結び付けて考えられるような指導をしていく。</li> <li>・説明文を扱ったプリントを使用し、習熟を図る。</li> <li>・フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、県の平均より13.6ポイント、市の平均より10.1ポイント高い。</p> <p>○「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる。」の正答率は92.5%で、ことわざの意味を理解、活用ができていことが分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことわざの意味を調べてまとめたり、友達同士で問題を出しあったりする活動を通して、ことわざについての理解を深め正確に使えるようにしていく。</li> <li>・フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県の平均より3.9ポイント、市の平均より4ポイント高い。</p> <p>○「相手に伝わるように自分の考えを、理由を挙げながら話すことができるかどうかをみる。」の問題では、正答率が96.3%と高い。</p> <p>●「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかをみる。」の問題では県の平均を4.7ポイント、市の平均を3.2ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の授業はもとより、他教科や朝の会のスピーチなどでも、話し手の工夫を捉えることができるように、内容に着目して考えられるように指導していく。</li> </ul>
書くこと	<p>平均正答率は、県の平均より5ポイント、市の平均より1ポイント低い。</p> <p>○段落の役割を理解し、2段落構成で指定された文章を書くことができる。</p> <p>●「文章の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことができるかどうかをみる。」では、正答率が40%と低く、県の平均を12.6ポイント、市の平均を8.8ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文や日記を中心に、今後も段落に分けて書く指導を継続していく。</li> <li>・タブレットに頼らず、学習活動の中に書く活動を多く取り入れて、事実を伝える文章を書くことができるようにしていく。</li> <li>・フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>
読むこと	<p>平均正答率は、県の平均より10ポイント、市の平均より8.4ポイント高い。</p> <p>○物語文を正しく読み取ることができており、登場人物に対する設問に対して理解して答えることができている。</p> <p>●「叙述を基に文章の内容を捉えることができるかどうかをみる。」の問題では、県、市の正答率を上回っているものの37.5%と低く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文では、登場人物の気持ちだけでなく、叙述から内容を捉えられるように時間を確保して丁寧に指導する。</li> <li>・読書活動を推進し、表現力が豊かな文章に触れる機会を増やす。</li> <li>・フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>

# 宇都宮市立峰小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.0	59.7	59.2
	図形	55.6	52.1	52.1
	変化と関係	63.1	56.1	56.3
	データの活用	64.7	60.1	58.9
観点	知識・技能	73.5	65.5	65.1
	思考・判断・表現	49.9	42.9	42.4



## ★指導の工夫と改善

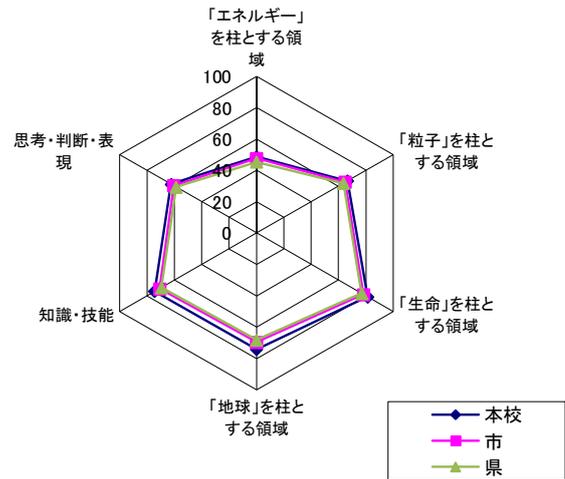
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均より10.8ポイント、市の平均より10.3ポイント高い。</p> <p>○数と計算の領域では、全15問の問題中、10問の正答率が、県の平均、市の平均共に10ポイント以上、上回った。</p> <p>●示された考えをもとに、小数の加法の処理を言葉で説明する問題では、県、市の平均を上回っているものの、正答率が18.8%と低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力が問われる文章問題を解く機会を多く設ける。</li> <li>・授業の中で自分の考えを筋道立てて説明したり、書いたりする機会を多く設ける。</li> <li>・フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、県、市の平均より共に3.5ポイント高い。</p> <p>○三角定規の角度を求める問題では、正答率が80%で、県の平均を15.3ポイント、市の平均を13.8ポイント上回った。</p> <p>●ひし形を作図する問題では、県の平均を8.4ポイント、市の平均を5ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパスや分度器を正しく使えるよう、作図する機会を多く設ける。</li> <li>・面積の大きさについての感覚を身に付けるために、身の回りの物の面積を調べる活動を取り入れるなど、日常生活と関連付けながら指導する。</li> <li>・フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>
変化と関係	<p>平均正答率は、県の平均より6.8ポイント、市の平均より7ポイント高い。</p> <p>○大きさをもとの何倍かで説明する問題では、県の平均を15.7ポイント、市の平均を12.6ポイント上回った。</p> <p>●表を見て2つの量の関係を言葉で説明する問題では、正答率が23.8%で、県の平均を10.2ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的な表現の仕方を身に付けさせるために、児童に使わせたい言葉を取り上げて、価値付けを行う。</li> <li>・児童同士で説明し合う機会を多くも設けて、自信や意欲を持たせる。</li> <li>・フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均より5.8ポイント、市の平均より4.6ポイント高い。</p> <p>○二次元表を読み取る問題では、県の平均を17.7ポイント、市の平均を15.1ポイント上回った。</p> <p>●折れ線グラフからわかることとして正しいものを選ぶ問題では、正答率が50%で、県の平均を5.7ポイント、市の平均を5.5ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一字一句きちんと認識する読み方を身に付けるために、授業において問題文の音読を行わせる。</li> <li>・長文課題に取り組ませ、必要な情報や条件を選択したり、筋道を立てて考えたりする機会を多く設ける。</li> <li>・フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</li> </ul>

# 宇都宮市立峰小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	48.8	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	66.6	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	81.3	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	74.2	69.5	68.1
観点	知識・技能	74.4	70.8	69.5
	思考・判断・表現	62.5	60.5	58.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均より3.5ポイント、市の平均より1ポイント高い。</p> <p>○「電流が大きくなる回路を選ぶ」問題では、県の平均を9.4ポイント、市の平均を5.4ポイント上回った。</p> <p>●「電流の向きや大きさ、回路に関する問題では、県の平均を上回っているものの、正答率が30%と低かった。</p> <p>●「並列」という言葉を知っていても漢字で正しく書けない児童が見られた。</p>	<p>・今後も実体験を重視し、一人一人が五感で学ぶ実験活動をさせるようにしていく。</p> <p>・理科の言葉を大切に、学年での漢字の既習未習に関わらず、漢字での表現に注意するようにしていく。</p> <p>・フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均より3ポイント、市の平均より1.7ポイント高い。</p> <p>○実験の結果と身の回りの現象を結び付けて考える問題では、県の平均を6.1ポイント、市の平均を5.1ポイント上回った。</p> <p>●「示温インクの色の変わり方を選ぶ」問題では、県の平均を11.3ポイント、市の平均を13.4ポイント下回っており意図を正しく理解して実験し、目的に沿って結果を見取することに課題が見られた。</p>	<p>・知識・技能の習得が図られており、思考問題も正答率が高いが、やや個人差が見られる。一人一人に対応した的確な支援や指導をしていく。</p> <p>・実験の計画を立てる際に、何のための実験・準備なのかをしっかりと確認し理解させるようにする。</p> <p>・実験の結果から考えられることを話し合う活動に、十分時間をとり、自分たちの言葉でまとめられるようにする。</p> <p>・フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均より4.5ポイント、市の平均より3.1ポイント高い。</p> <p>○「サクラの様子の変化を理解しているかどうか」の問題では県の平均を8.4ポイント、市の平均を5.2ポイント上回るなど、どの内容でも県、市の平均を上回っており定着が図られている。</p>	<p>・今後も、授業時間だけでなく、身近な自然や現象に、関心や疑問をもって目を向けるようにさせていく。</p> <p>・実験や観察のポイントをはっきりさせた支援指導をしていく。</p> <p>・フォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均より6.1ポイント、市の平均より4.7ポイント高い。</p> <p>○天気の流れ方や方位磁針の使い方、空気中の水蒸気の変化については、県や市の平均の10ポイントから15ポイント程度上回った。</p> <p>●天気と気温の変化の様子についての問題では正答率が県の平均を2.1ポイント、市の平均を3.7ポイント下回った。</p>	<p>・今後も、授業時間だけでなく、身近な自然や現象に、関心や疑問をもって目を向けるようにさせていく。</p> <p>・実験や観察のポイントをしっかりとさせた支援指導をしていく。</p> <p>・実験や観察の結果を正しく見取り、表やグラフなどに表す活動を丁寧に行う。</p> <p>・問題の意図を読み取ることができるようフォローアップシート、CBT問題を活用して習熟を深める。</p>

## 宇都宮市立峰小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の設問の肯定割合と、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある」の設問の肯定割合は共に91.3%である。授業中も、進んで調べ学習を行ったり、分からないことを質問したりするなど、児童は、意欲的に学習に取り組んでいる姿が見られる。今後も、児童が問いを追究しながら、学習することの楽しさを感じられるような授業の工夫を図っていく。

○●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の設問の肯定割合は、92.6%と高く、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の設問に「はい」と答えた児童の割合は、市の平均を14.6ポイント上回っている一方で、「あまり得意ではない」と回答した児童の割合も46.3%となっている。

話し合い活動を様々な授業で取り入れ、自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりする場を設定してきた。今後も引き続き意見を伝え合う場の設定を多用し、話し合い活動を通して自分の意見や考えを進んで表現できる児童の育成に努めたい。

○「学校のきまりを守っている」の設問の肯定割合は97.6%で、「家でのきまりや約束を守っている」の設問の肯定割合は92.5%で、きまりの大切さを実感している児童が多いことが分かる。今後も、道徳の授業や日々に指導を通してきまりを守ることの大切さや約束を守ることのよさを伝えていく。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の設問で「はい」と回答した児童の割合は30%で、県の平均を4.3ポイント下回っている。宿題をしっかりと行うことができている一方、教師や保護者に言われてから課題に取り組んでいる現状がある。今後は宿題の工夫や、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるような授業を行うよう努める。

○「早ね、早起きを心がけている」の設問の肯定割合は80.1%、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか」の質問に1時間より少ないと答えた児童が43.8%である。家庭において、インターネットやゲームの使い方などの約束を守り、規則正しい生活を送ろうとしている児童が多くいることが分かる。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の設問の肯定割合は80%で、県の平均を17.1ポイント上回っている。今後も認め合い励まし合う場の設定や、一人一役など役割を担えるような活動を取り入れながら児童の自己有用感が高まるよう支援していく。

## 宇都宮市立峰小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもち、友達と意見の交流を図りながら協働する力の育成	教材やICTをを効果的に活用し、自分の考えをノートやタブレットにまとめ、意見交換する機会を設けている。	「自分の考えを発表する機会が与えられている」の設問の肯定割合は、4年生が92.8%、5年生が91.3%で共に県の平均より10ポイント程度上回っているが、「話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の肯定割合は、4年生が71%、5年生が92.6%で、県の平均に比べ、4年生は6.6ポイント低く、5年生は12.8ポイント高くなっている。
目標やめあてに基づき、学んだことを振り返る活動の充実	学習展開を工夫して、今行っている学習活動を意識させ、授業を振り返るための視点を児童に与えている。	「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の設問の肯定割合は、4年生が83.6%、5年生が97.6%で、県の平均に比べ、4年生は同程度、5年生は8.5ポイント高い。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から国語の言葉の特徴や使い方に関する事項や作文の領域全般に関わる問題において県平均よりも低いものがあった。	基礎的な言語や文法の習得や作文力向上につながる指導の充実	・継続的にミニテスト等で漢字や言語を復習する機会を設けたり、単元の導入などに、前学年までの内容を復習する機会を設定したりして、定着を図れるようにする。 ・日常的な日記指導や行事ごとの作文指導などを通して、作文力の向上に努めたり、テーマや字数、文数など条件を提示した文章を書く機会を多く設けたりする。